




絹本着色仏涅槃図



指定区分	国指定重要文化財(絵画)
読みかた	けんぽんちゃくしよくぶつねはんず
所在地	笠岡市神島内浦 自性院、安養院
指定年月日	明治34年8月2日
解説	涅槃図は、釈迦の入滅の様態をあらわすもので、図柄は一般に中央に大きく北枕に右脇を下にした釈尊の臥像が置かれ、8本の沙羅双樹に囲まれる。その周囲に弟子や諸菩薩や羅漢をはじめ、鬼神、動物、虫など52種類の衆生が悲しむ様子を描き、急をきいて駆けつける仏母摩耶夫人の姿も見いだせる。釈尊のこの世における重要な事跡8種について、入涅槃を中心に構成する八相涅槃図と呼ばれるものである。鎌倉時代末頃の作と考えられている。
アクセス方法	JR岡山駅から徒歩約25分／路面電車「城下」下車徒歩約10分／岡電バス「後楽園前」下車すぐ
公開状況	岡山県立博物館保管
設備	<p>駐車場は岡山後楽園駐車場を利用。</p> <p>    </p>
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(絵画)
ぶんかざいめい (文化財名)	絹本著色仏涅槃図
よみかた	けんぽんちゃくしよくぶつねはんず
しょざいち (所在地)	笠岡市神島内浦 自性院、安養院
していしたひ (指定した日)	明治34年8月2日
せつめい	涅槃図(ねはんず)とは、釈迦(しゃか)が死んでしまったときの様子(ようす)を描(え)がいたものです。まん中に大きく釈迦が横(よこ)たわり、そのまわりに弟子(でし)たちや動物(どうぶつ)たちなどが悲(かな)しんでいる様子を描(え)いています。岡山県立博物館(おかやまけんりつはくぶつかん)で保管(ほかん)されています。